



平成23年3月期 決算説明会資料

平成23年6月6日（大阪）

平成23年6月7日（東京）

石原薬品株式会社

（東証二部・大証二部）

目次

➤ 平成23年3月期 決算の概要 (代表取締役社長 竹森 莞爾)

平成23年3月期 決算の概要
平成23年3月期の営業の状況
営業品目別売上高3期比較
次期(平成24年3月期) 業績予想・業績予想のポイント
株主還元・内部留保の考え方
中期経営計画について

➤ 決算の詳細 (常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要
製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移
貸借対照表の概要
キャッシュ・フロー計算書の概要
キャッシュ・フローと設備投資額の推移

➤ 新技術、新製品開発の状況 (代表取締役専務 時澤 元一)

技術動向
新製品開発の状況 (フォトシンタリング型導電性銅ナノインクについて)
めっき製品紹介
部品紹介

《参考資料》 経営の基本方針
当社の特徴
営業品目別売上高推移 (平成12年度実績～平成23年度予想)
研究開発人員と研究開発費
業績の推移と配当
総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

平成23年3月期 決算の概要 （代表取締役社長 竹森 莞爾）

前半は国内の消費刺激策を背景に穏やかな回復基調で推移、後半に入り個人消費の弱含み、円高などの懸念材料もあり先行き不透明な状況で推移。

金属表面処理剤及び機器の伸び、自動車用化学製品の業績回復受け、事業は回復基調、特別損益の増減があり純利益ベースで減益。

平成23年3月11日付で東京証券取引所市場第二部に上場。

（単位：億円、％）

	平成22年3月期	平成23年3月期				修正発表値	修正発表との差異
	年間 (a)	上期	下期	年間 (b)	差異 (b)-(a)	金額 (c)	差異 (b)-(c)
売上高	128.2	72.7	69.3	142.0	13.8	141.7	0.3
売上総利益	33.9	20.1	18.3	38.4	4.5	38.6	0.2
営業利益	5.8	5.6	3.6	9.2	3.4	9.1	0.1
経常利益	6.3	5.7	3.7	9.4	3.1	9.5	0.1
当期純利益	6.0	1.3	3.2	4.5	1.5	4.6	0.1
1株当たり当期純利益 (円)	87.10			65.67			

（平成23年1月28日発表）

平成22年3月期との差異内容

◆ 売上高（13.8億円）

製品売上 + 6.0億円
商品売上 + 7.8億円

（
金属表面処理剤
及び機器等 + 13.3億円
電子材料 1.9億円
自動車用化学製品等 + 0.9億円
工業薬品 + 1.5億円
）

◆ 売上総利益（+4.5億円）

製品売上総利益 + 2.7億円
商品売上総利益 + 1.8億円

◆ 当期純利益（1.5億円）

売上総利益 + 4.5億円
販管費増 1.1億円
――
営業利益 + 3.4億円
営業外損益 0.3億円
――
経常利益 + 3.1億円
特別損益 4.6億円
投資有価証券売却益 2.0億円
投資有価証券評価損 2.2億円
資産除去債務 0.4億円
――
当期純利益 1.5億円

平成23年3月期の営業の状況

電子関連分野 売上高 82.6億円（前期 71.2億円 15.9%増）売上構成比 58.2%

アジア市場向けデジタル機器需要の拡大が続いたが、欧米や日本など景気先行き不透明が強まり、期後半は電子部品・デバイス関連の在庫増に伴い生産調整局面が見られた。

金属表面処理剤及び機器等 売上高 67.6億円（前期 54.3億円 24.5%増）

電子部品用外装めっき液

めっき液は後半に入りやや弱含みで推移、半導体パッケージのリードレス化が加速する中、対応するバンプめっき液は、国内・海外とも好調に推移。

化成処理液自動管理装置及び試薬

プリント基板関連、フラットパネル関連とも海外を中心に設備投資が再開し受注が伸び、ユーザーの生産稼働率の向上により、試薬需要も回復。

電子材料 売上高 14.9億円（前期 16.8億円 11.6%減）

ニッケル超微粉

需要先のセラミックコンデンサの生産減による納入数量減と単価下落により低迷。

機能材料加工品

半導体製造業界の生産が活発化、液晶製造装置業界も順調に回復し機能材料の部品需要が伸長。

自動車用品分野 売上高 15.7億円（前期 14.8億円 6.3%増）売上構成比 11.1%

軽微なキズ等の補修はしない傾向など、自動車ケミカル全般の市場規模縮小のなか、エアコンフィルター標準装備に伴い、交換時にエアコン洗浄施工を促進。補修用コンパウンドの新製品が順調に推移。

工業薬品分野 売上高 43.6億円（前期 42.0億円 3.7%増）売上構成比 30.7%

高級鋼材輸出が堅調に推移、国内での新車販売台数、エアコン販売の伸びにより、鋼材需要が伸び、鋼板用一般薬剤、特殊薬剤及び化学、環境向け薬剤も伸長。

営業品目別売上高 3 期比較

(単位：億円，%)

	平成22年3月期 (a)		平成23年3月期 (b)		差異 (b)-(a)	平成24年3月期 (予想)(c)		差異 (c)-(b)
製品 金属表面処理剤及び機器等	40.7	31.8%	44.3	31.2%	3.6	46.5	30.8%	2.2
電子材料	2.5	2.0%	3.5	2.5%	1.0	4.5	3.0%	1.0
電子関連分野 計	43.2	33.8%	47.8	33.7%	4.6	51.0	33.8%	3.2
自動車用化学製品等	9.8	7.6%	10.7	7.5%	0.9	11.8	7.8%	1.1
工業薬品	1.9	1.5%	2.3	1.6%	0.4	2.2	1.4%	0.1
製品合計	54.9	42.8%	60.8	42.8%	5.9	65.0	43.0%	4.2
商品 金属表面処理剤及び機器等	13.6	10.6%	23.4	16.5%	9.7	24.4	16.2%	1.0
電子材料	14.4	11.2%	11.4	8.0%	2.9	16.3	10.8%	4.9
電子関連分野 計	28.0	21.8%	34.8	24.5%	6.8	40.7	27.0%	5.9
自動車用化学製品等	5.1	4.0%	5.1	3.6%	0.0	3.7	2.5%	1.4
工業薬品	40.2	31.3%	41.3	29.1%	1.1	41.6	27.5%	0.3
商品合計	73.3	57.2%	81.2	57.2%	7.9	86.0	57.0%	4.8
合計	128.2	100.0%	142.0	100.0%	13.8	151.0	100.0%	9.0

次期（平成24年3月期）の業績予想

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位：億円，%)

	平成23年3月期 (実績)			平成24年3月期 (予想)			
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	伸び率
売上高	72.7	69.3	142.0	74.2	76.8	151.0	106.3%
営業利益	5.6	3.6	9.2	4.7	4.5	9.2	99.7%
経常利益	5.7	3.7	9.4	5.0	4.8	9.8	103.6%
当期純利益	1.3	3.2	4.5	3.4	3.2	6.6	144.0%
1株当り当期純利益(円)			65.67			88.47	
1株当り配当額(円)			35.00			30.00	

次期（平成24年3月期）の業績予想のポイント

売上高・売上総利益

- (1) スマートフォン、タブレット端末、パソコン、液晶テレビの需要拡大に伴い電子部品需要の拡大が見込まれ、電子部品の外装めっき液において、台湾、韓国を中心にウエハーバンプ向け、COF向けが順調に推移すると予想。
- (2) 自動車用化学製品等その他、各事業が回復傾向にある。

経費・人件費

費用節減に努めつつ、販路拡大等市場開拓に関する費用、研究開発費用は、積極的に投入する。

研究開発費：940百万円計画（製品売上高の14.5%）前年比120%

新製品開発、新技術開発の促進（ナノ粒子関連等、新規電子材料の開発）

設備投資：1,030百万円計画

生産場所の分散による生産体制のリスクヘッジ及び新規電子材料の事業化に向け、工場取得、生産設備増強。

株主還元・内部留保の考え方

平成24年3月期の配当予想

安定配当を基本としつつも、業績、経営環境、財務状況を勘案して、中間配当15円、期末配当金15円の年間配当金30円を予定。

株主還元の基本方針

安定的かつ継続的な配当を基本としつつ、業績に応じ増配を検討するなど弾力的な還元策を図っていく方針であります。自己株式の取得等も資本政策として合わせて検討し、株主の皆さまに満足していただける株主還元を検討してまいります

内部留保

健全な経営基盤を維持するため内部留保の充実を図ってまいりますとともに、その活用については、研究開発や新事業、新技術開発など将来の企業価値を高めるための投資に優先して充当してまいります。

なお、株主還元と内部留保のバランスについては、当社のおかれた環境を考慮して慎重に検討を継続していきます。

中期経営計画について

基本的な取り組み方針

(1) 基礎となる3つの分野、4つの事業をバランスよく展開し、各々の事業の収益力を高め、その総体として会社の業績の伸長をはかる。

めっき分野の利益率の5%改善

その他の分野の利益構造の改善

(2) 電子材料関連分野を重点開発分野と位置づけ第5の事業を立ち上げる。

回路形成用銅めっき液の市場へ参入、展開

(平成24年度には4億円程度見込む)

金属ナノ粒子を用いた電子回路形成材料の開発(数値的には未算入)

(3) 新製品開発、新技術開発のため研究開発投資を積極的に行う。

(4) 生産場所の分散による生産体制のリスクヘッジ及び生産能力の視点から工場取得、生産設備の増強をはかっていく。

中期経営計画について

目標とする経営指標

- (1) 自社製品の売上拡大により、製品売上高の構成比50%以上を目標とし、売上総利益の拡大をはかる。
- (2) 売上高経常利益率10%以上を目標とする。
- (3) ROE（自己資本当期純利益率）・EPS（1株当たり当期純利益）の向上をはかる。

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3 (予想)
製品割合 (%)	40.2	38.9	41.8	42.3	48.8	49.3	45.2	40.7	42.8	42.8	43.0
売上高経常利益率 (%)	3.9	6.4	8.3	10.2	12.3	12.5	10.1	3.2	4.9	6.7	6.5
ROE (%)	2.0	4.6	6.9	9.1	9.6	9.2	6.9	-0.6	4.9	3.5	5.0
EPS (円/株)	24.85	56.73	88.77	126.03	145.09	155.00	121.10	-9.76	87.10	65.67	88.47

当社を取り巻く外部環境は日々刻々と変化し、現在のような金融環境の激変期
あつては、ROEの向上とともに企業の持続性も重要な経営課題として認識して
おります。

このような状況のもとでは、強固な財務状況を維持し、株主、取引先等、全ての
ステークホルダーに安心していただける基盤の整備も重要であると考えております。

中期経営計画について（平成22年度～平成24年度予想）

数値目標

	平成23年3月期 実績（構成比）	平成24年3月期 予想（構成比）	平成25年3月期 予想（構成比）
製品売上高	60.8 億円 (42.8%)	65.0 億円 (43.0%)	77.6 億円 (45.1%)
商品売上高	81.2 億円 (57.2%)	86.0 億円 (57.0%)	94.5 億円 (54.9%)
計	142.0 億円	151.0 億円	172.1 億円
経常利益	9.4 億円	9.8 億円	19.0 億円
当期純利益	4.5 億円	6.6 億円	11.8 億円
売上高 経常利益率	6.7 %	6.5 %	11.0 %

（注）東日本大震災による直接的な、当社への人的、物的影響はありませんでしたが、今後、当該震災に起因する当社への影響につきましては、継続的に情報収集、分析、評価等を行い、業績に重大な影響が見込まれる場合には速やかに開示いたします。
 なお、平成25年3月期につきましては、平成22年6月発表の値から見直しは行っておりません。

決算の詳細 (常務取締役 浅野 真司)

損益計算書の概要

(単位: 百万円)

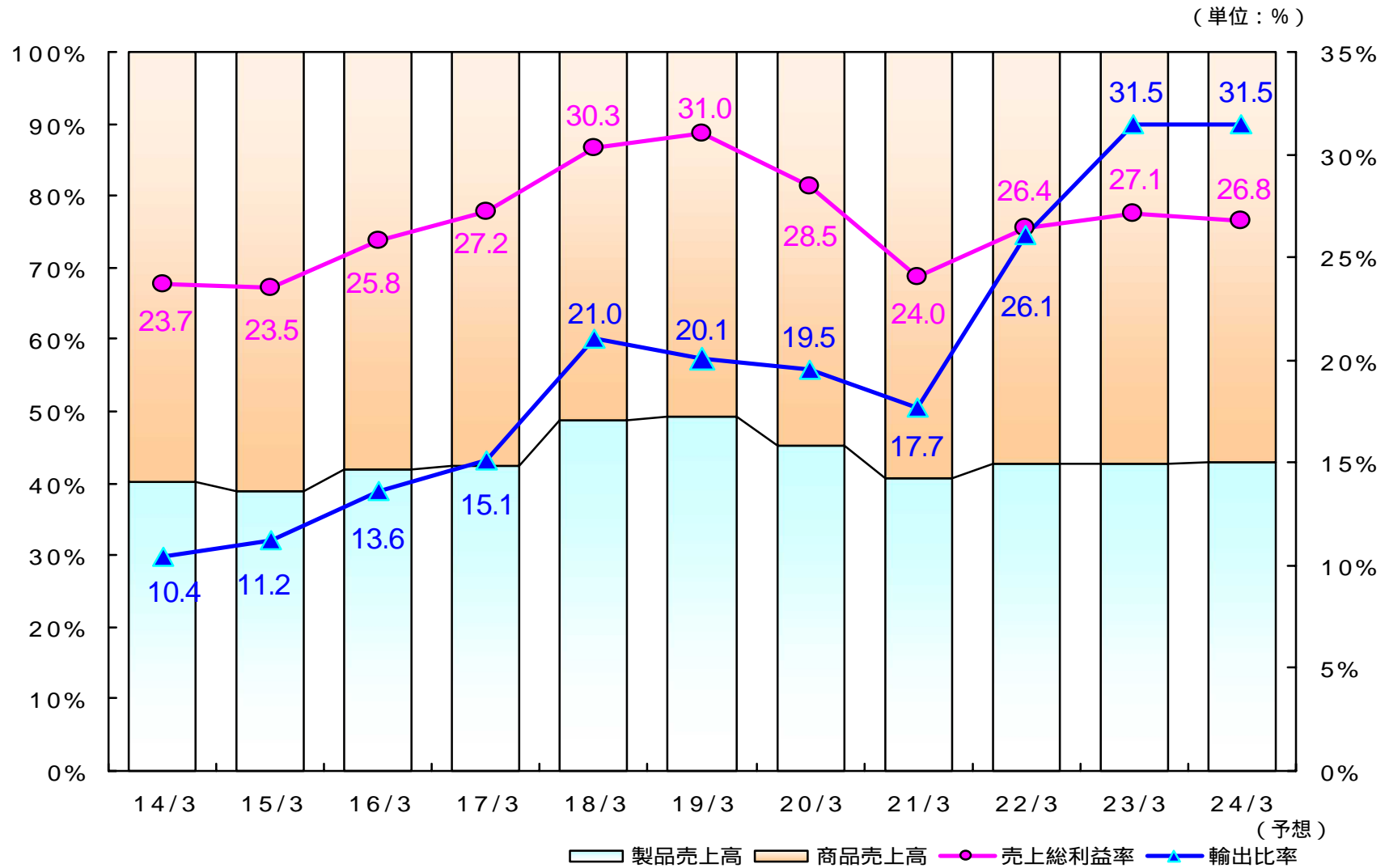
	平成22年3月期		平成23年3月期		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
売上高	12,823	100%	14,209	100%	1,386
売上原価	9,432	73.6%	10,362	72.9%	930
売上総利益	3,391	26.4%	3,846	27.1%	455
販売費及び一般管理費	2,807	21.9%	2,923	20.6%	116
営業利益	583	4.5%	922	6.5%	339
営業外利益	79	0.6%	86	0.6%	7
営業外費用	30	0.2%	63	0.4%	33
経常利益	631	4.9%	945	6.7%	314
特別利益	202	1.6%	0	0.0%	202
特別損失	35	0.3%	301	2.1%	266
税引前当期純利益	797	6.2%	645	4.5%	152
法人税等	193	1.5%	187	1.3%	6
当期純利益	604	4.7%	458	3.2%	146

- * 売上高・・・ +1,386百万円
 - 製品売上・・・ +596百万円
 - 商品売上・・・ +789百万円
 - 輸出比率 17.7% 26.1% 31.5%
(H21.3期) (H22.3期) (H23.3期)
- * 売上総利益・・・ +455百万円
 - 売上総利益率 24.0% 26.4% 27.1%
(H21.3期) (H22.3期) (H23.3期)
 - 売上構成の変化

製商品割合	製品	商品
(H21.3期)	40.7%	: 59.3%
(H22.3期)	42.8%	: 57.2%
(H23.3期)	42.8%	: 57.2%
 - 売上総利益率の変化

	製品	商品
(H21.3期)	47.5%	: 7.9%
(H22.3期)	48.1%	: 10.2%
(H23.3期)	47.8%	: 11.5%
- * 販売費及び一般管理費・・・ +116百万円
 - 運賃・諸掛・・・ +33百万円
 - 支払手数料・・・ +35百万円
 - 報酬給与賞与・・・ +25百万円
 - 特許関係費用・・・ +16百万円
 - 販売手数料・・・ +15百万円
 - その他・・・ 8百万円
- * 営業外収益・・・ +7百万円
- * 営業外費用・・・ +33百万円
- * 特別利益・・・ 202百万円
前期の株式売却益(当期なし)
- * 特別損失・・・ +266百万円
有価証券評価損増
- * 法人税等・・・ 6百万円

製品・商品別売上高比率・売上総利益率・輸出比率推移



貸借対照表の概要

(単位：百万円)

	平成22年3月期	平成23年3月期	増減金額
(資産の部)			
流動資産	8,925	8,979	54
現預金	3,747	4,145	398
売上債権	3,524	3,525	1
有価証券	672	70	602
棚卸資産	793	1,084	291
その他	189	155	34
固定資産	7,087	7,967	880
有形固定資産	2,678	2,599	79
無形固定資産	30	42	12
投資その他の資産	4,378	5,325	947
資産合計	16,012	16,947	935
(負債の部)			
流動負債	3,050	3,101	51
仕入債務	2,326	2,560	234
1年以内返済予定 長期借入金	26	24	2
その他	698	517	181
固定負債	425	526	101
長期借入金		8	8
その他	425	519	94
負債合計	3,475	3,628	153
(純資産の部)			
純資産合計	12,536	13,318	782
負債・純資産合計	16,012	16,947	935

主な資産・負債の増減内容

- * 現預金 . . . + 398百万円
- * 有価証券、投資有価証券 . . . + 217百万円
 - 償還 768百万円
 - 運用 + 1,200百万円
 - 評価替 215百万円
- * 棚卸資産 . . . + 291百万円
 - 商品 (NI粉) + 95百万円
 - 原材料 (めっき関係他) + 176百万円
 - その他 + 20百万円
- * 流動資産 (その他) . . . 34百万円
 - 前渡金 57百万円
- * 有形固定資産 . . . 79百万円
 - 設備投資 203百万円
 - 減価償却費 280百万円
- * 仕入債務 . . . + 234百万円
- * 流動負債 (その他) . . . 181百万円
 - 未払法人税 144百万円
 - 設備未払金 35百万円
 - 設備支払手形 35百万円
 - 前受金 + 23百万円
- * 固定負債 (その他) . . . + 94百万円
 - 資産除去債務 + 38百万円
 - 預り保証金 + 20百万円
 - 退職給与引当金 + 22百万円
- * 純資産 . . . + 782百万円
 - 自己株式処分 + 488百万円
 - その他資本剰余金 + 20百万円
 - 利益剰余金 + 251百万円
 - 評価差額金 + 23百万円

キャッシュ・フロー計算書の概要

現金及び現金同等物の増加・・・398百万円（期末残高 4,136百万円）

* 営業活動によるキャッシュ・フロー・・・849百万円

減価償却費 310百万円、たな卸資産増加 291百万円

仕入債務増加 233百万円、法人税等支払 354百万円等

* 投資活動によるキャッシュ・フロー・・・696百万円

有価証券取得による支出 1,191百万円、売却・償還による収入 753百万円

有形固定資産取得による支出 225百万円等

* 財務活動によるキャッシュ・フロー・・・262百万円

自己株式の処分による収入 504百万円、配当金支払 208百万円等

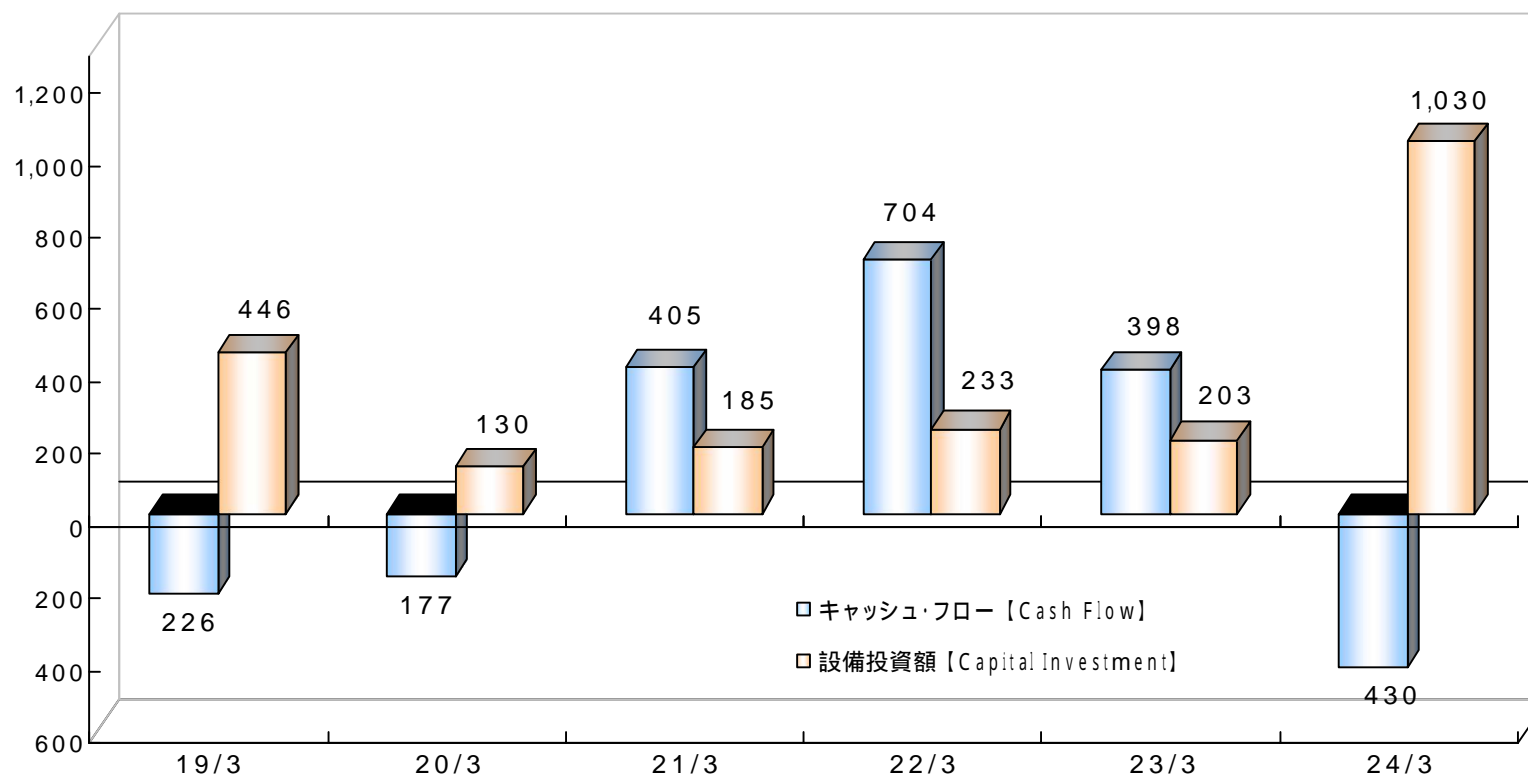
（単位：百万円）

	平成22年3月期	平成23年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,148	849
投資活動によるキャッシュ・フロー	163	696
財務活動によるキャッシュ・フロー	276	262
現金及び現金同等物の増減額	704	398
現金及び現金同等物の期首残高	3,033	3,738
現金及び現金同等物の期末残高	3,738	4,136

キャッシュ・フローと設備投資額の推移

(単位：百万円)

	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3 (予想)
キャッシュ・フロー [Cash Flow]	226	177	405	704	398	430
設備投資額 [Capital Investment]	446	130	185	233	203	1,030
減価償却費 [Depreciation Expenses]	239	252	270	259	310	370



新技術・新製品開発の状況

(代表取締役専務 時澤 元一)

技術動向

はんだめっきの技術動向

新製品開発の状況

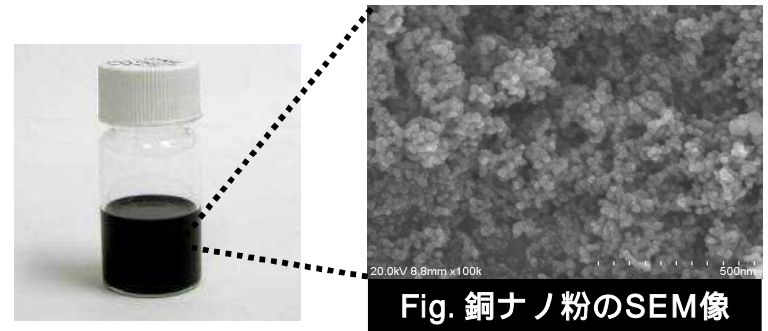
フォトシタリング型導電性銅ナノインクについて

概 要

フォトシタリング型導電性銅ナノインクは、ポリイミド等の基板へ印刷後、フラッシュランプ照射により、1秒以下の短時間で焼成可能です。得られた皮膜は、純銅の数倍程度の非常に小さい比抵抗であり、基板との密着性も良好であり、回路形成をはじめとして様々な分野へ適用可能です。

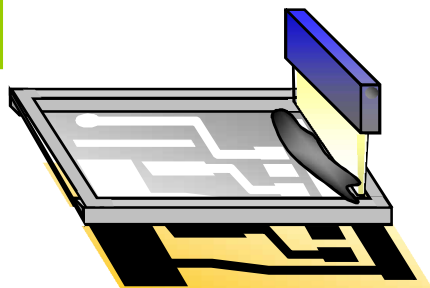
特 徴

大気下、室温、短時間で焼成可能プロセスであり Roll to Rollへの適用も可能です。
純銅に近い比抵抗の皮膜が得られます。
めっき法による増膜が可能です。

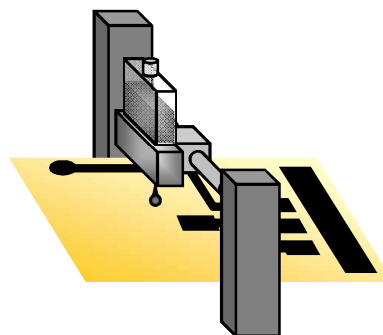


フォトシンタリングプロセス

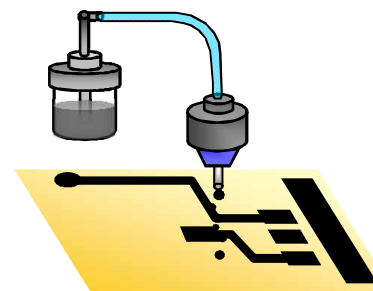
1.印刷



スクリーン印刷



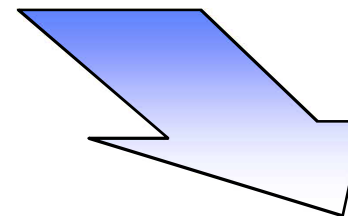
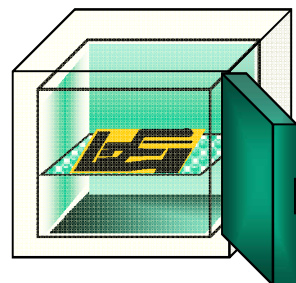
インクジェット印刷



Aerosoljet®

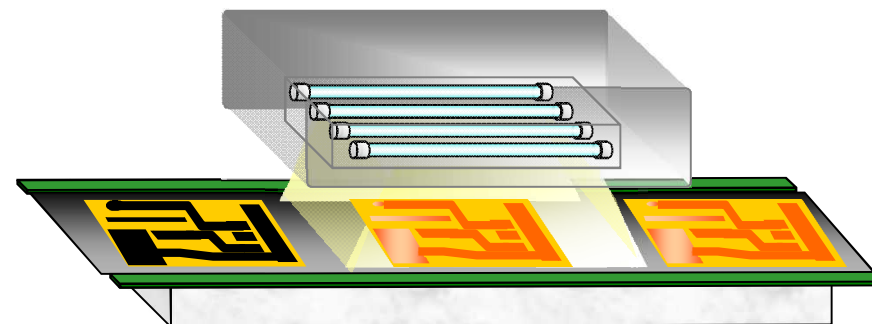
2.乾燥

雰囲気 : 大気下
乾燥温度 : 室温 ~
乾燥時間 : 5分以下

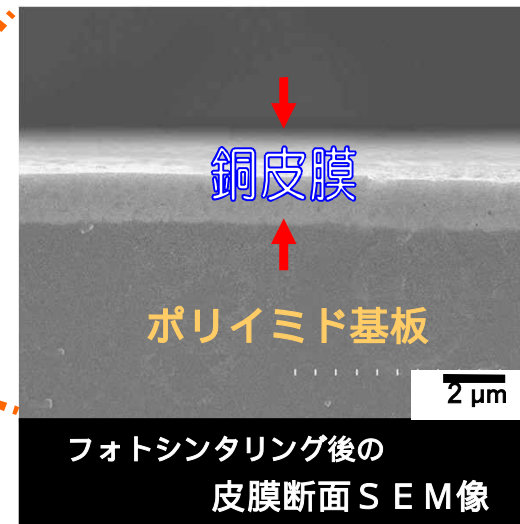
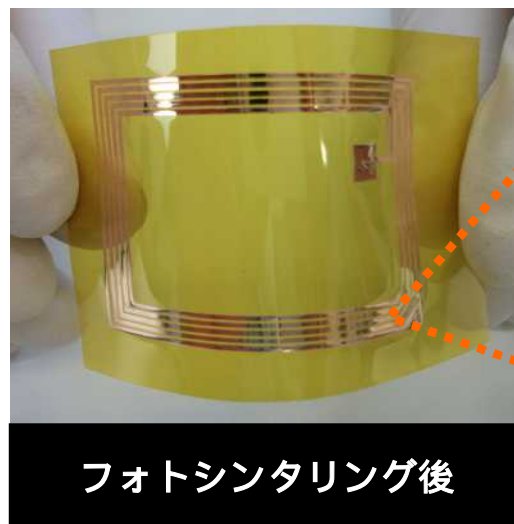
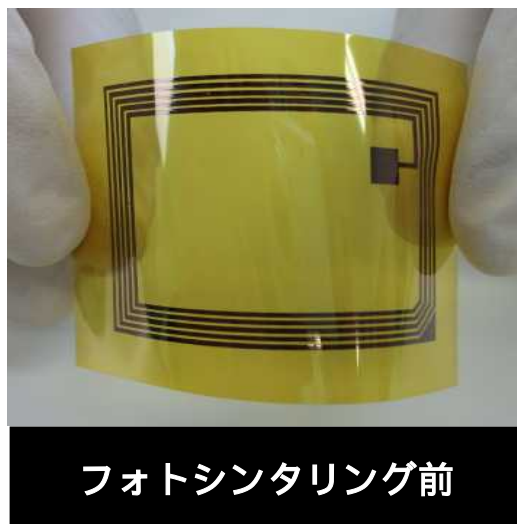


3.フォトシンタリング

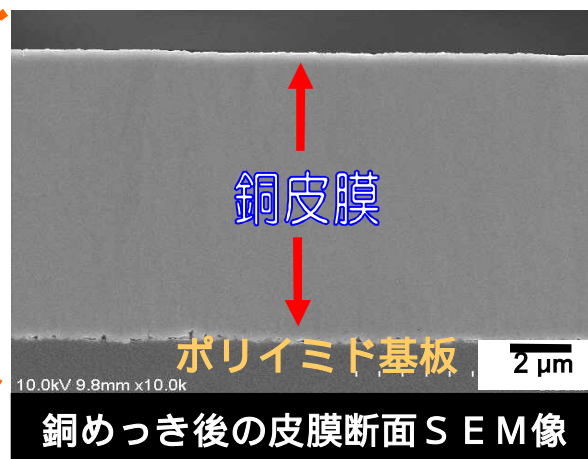
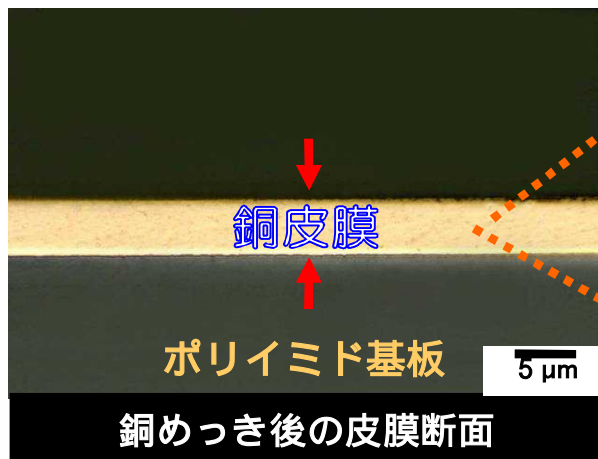
雰囲気 : 大気下、室温
焼成時間 : 1秒以下(数マイクロ秒)



フォトシンタリング前後の銅回路外観と銅皮膜断面SEM像



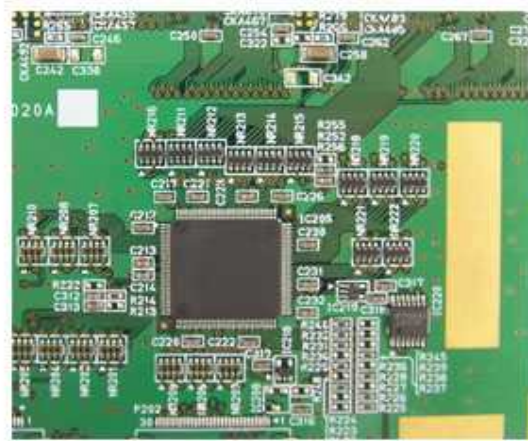
銅めっきにより増膜した皮膜の断面像



めっき製品紹介

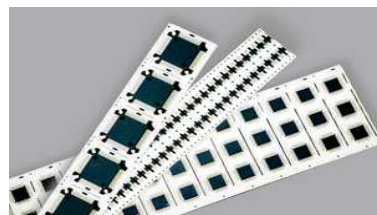
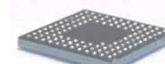
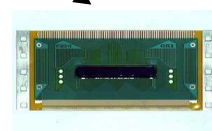
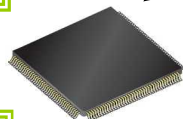
基板

製品



部品

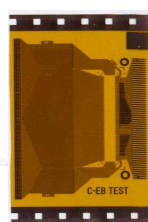
めっき



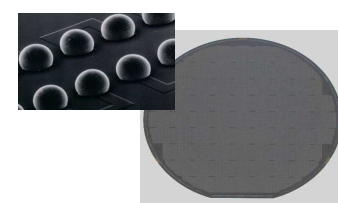
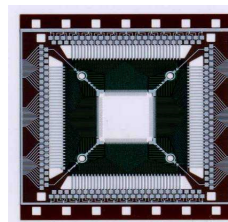
IC半導体部品



チップ部品

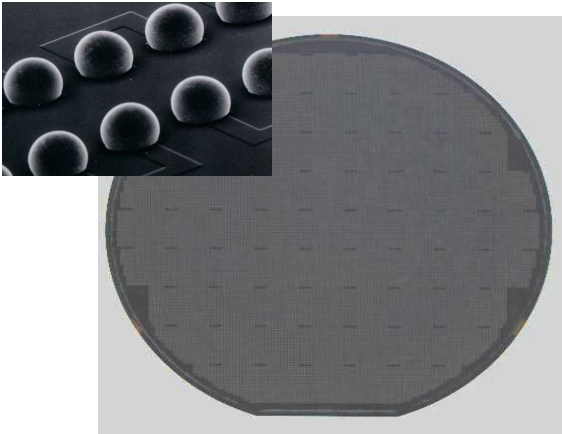


TAB/COF部品

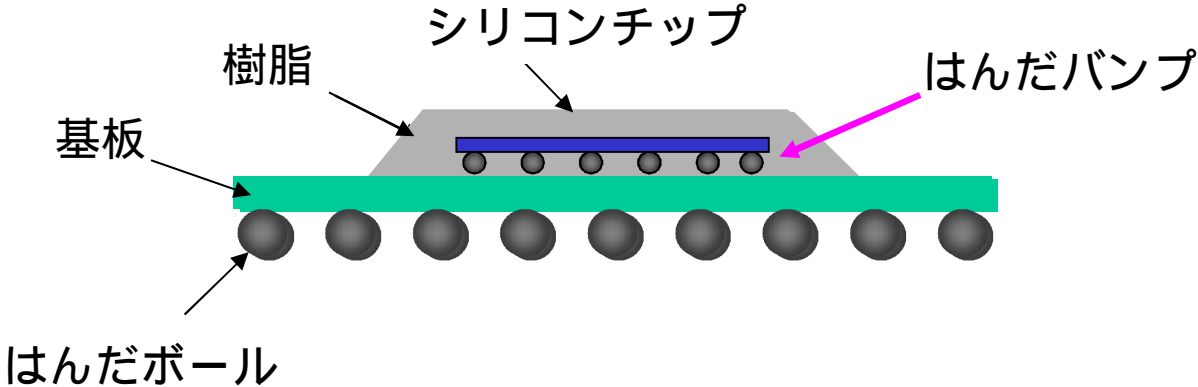


バンプ部品

はんだバンプを使用したBGAパッケージの構造

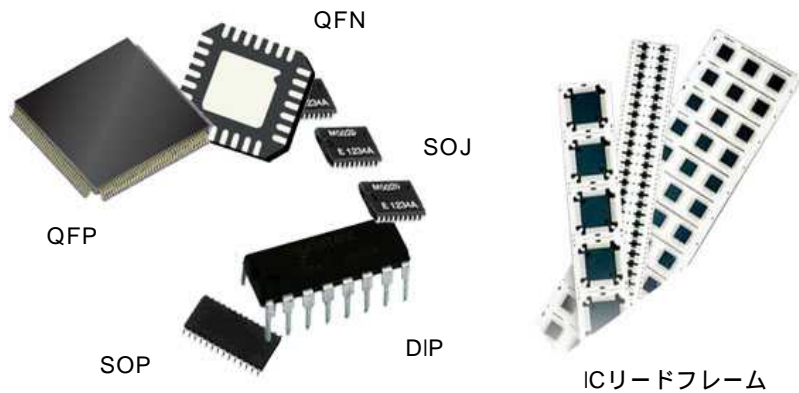


ウェハー

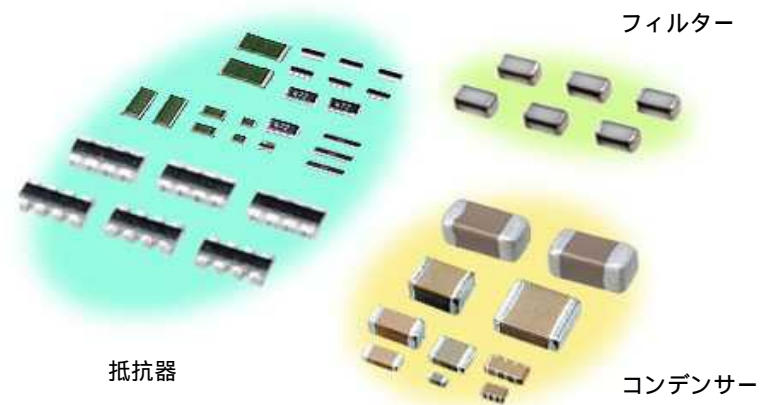


部品紹介

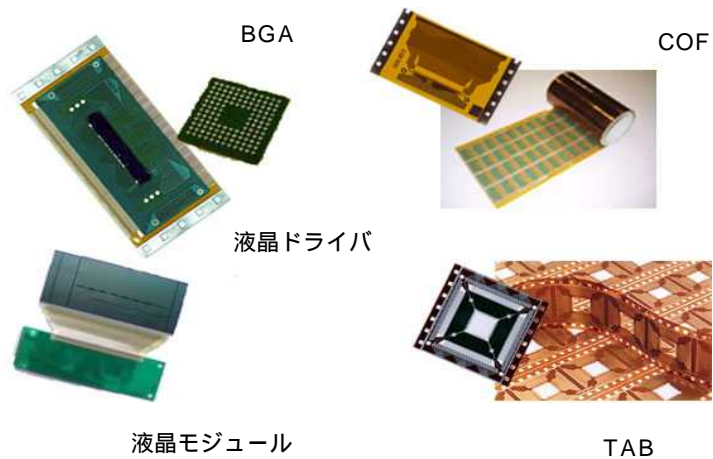
IC半導体部品



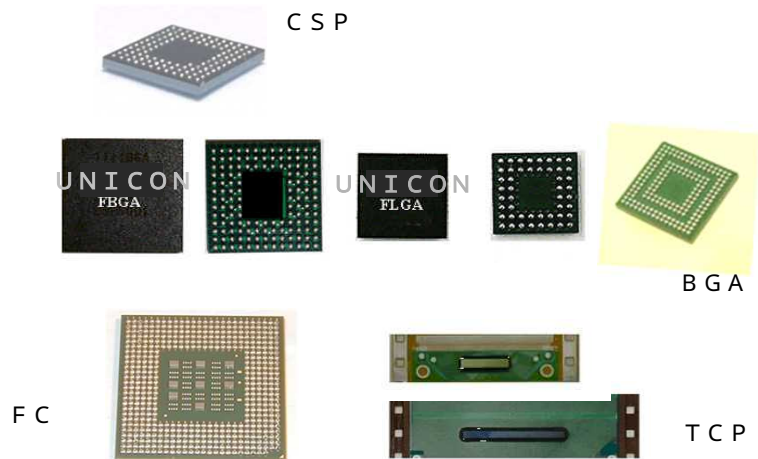
チップ部品



T A B / COF部品



バンプ使用部品



《参考資料》

経営の基本方針

当社の特徴

営業品目別売上高推移

(平成12年度実績～平成23年度予想)

研究開発人員と研究開発費

業績の推移と配当

総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

展示会出展予定のご案内

経営の基本方針

経営の基本方針

- (1) 当社は自己開発・商品開発・市場開発の「三つの開発」を企業理念とし、ニッチ市場といわれる事業分野で高い市場占有率を維持し、基幹となる3つの分野で事業をバランスよく展開し、各々の収益力を高め、総体として会社の業績の伸長をはかる。
- (2) このような事業活動を通じて常に新しいニーズの創造・発掘に取り組み、会社の発展を通じて、株主・取引先・従業員など関係各位の信頼と期待に応え、社会に貢献していく。

企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に努める。

全てのステークホルダーの満足度向上

当社の特徴

事業領域

界面化学を中核技術に3つの分野で4つの事業を展開
「全天候型経営」による事業リスクの分散

ニッチ市場で高い占有率

はんだめっき液で国内トップシェア
鉛フリー製品（環境配慮型製品）

研究開発型企业

強固な研究開発体制

全従業員の1/3程度を研究開発人員に充てる

研究開発費 ⇨ 売上高の増減により変動するが、概ね製品売上高
10%程度を投入する

各大学・試験所との連携による研究開発

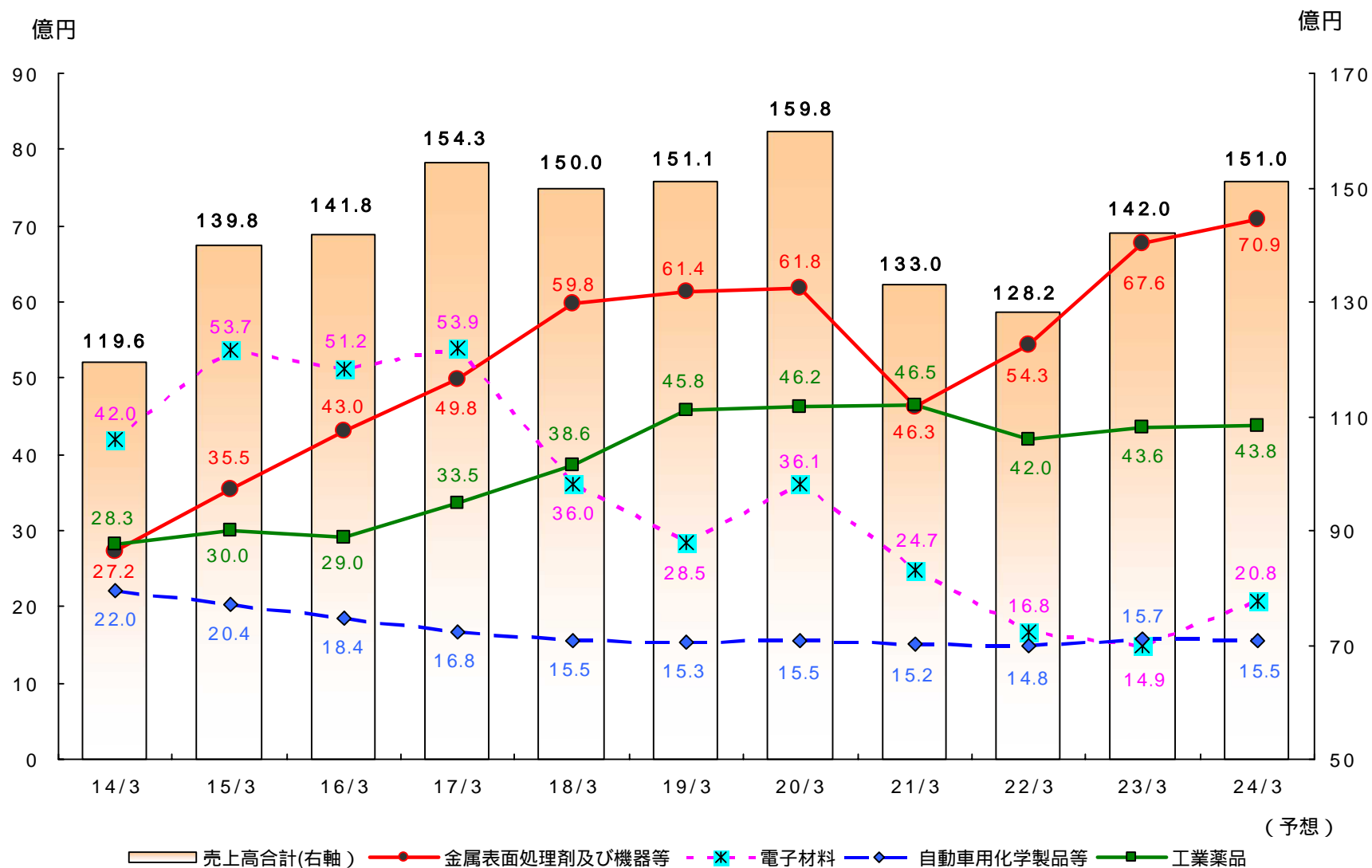
技術サポート

技術サポート力を基盤に、技術フォローまで含めた高付加価値サービスの提供

安定した事業基盤、財務基盤に基づくパートナー企業との信頼関係の上で
新製品開発・新市場開発を展開しています。



営業品目別売上高推移（平成13年度実績～平成23年度予想）



研究開発人員と研究開発費

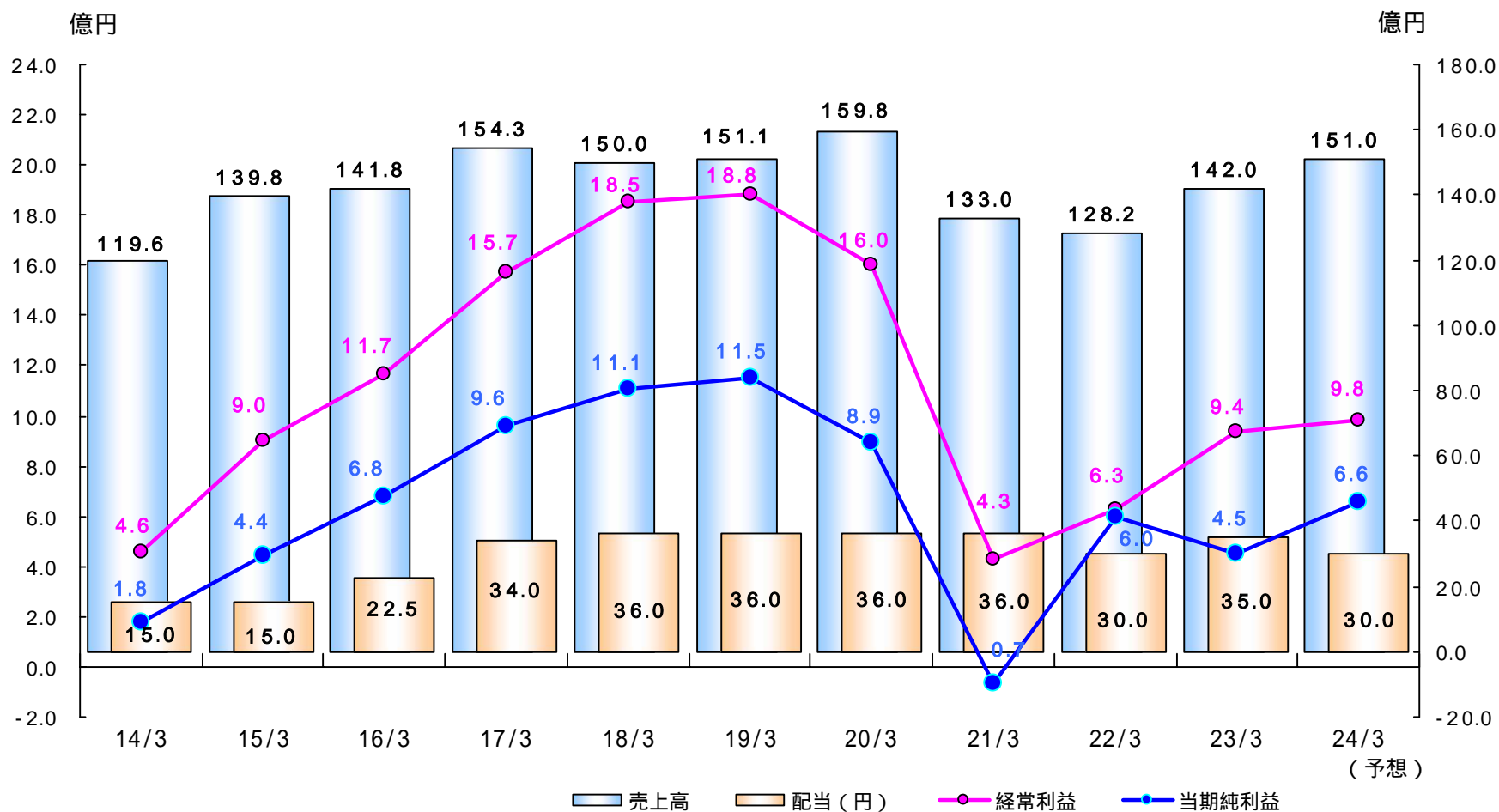
	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3 (予想)
従 業 員	180	182	178	183	182	184	197
研究開発人員	53	55	58	62	63	72	81
割 合	概ね1/4が研究開発要員 1/3へ						

(単位：百万円)

研究開発費	639	680	724	770	798	786	940
研究開発用設備取得 (リース資産も含む)	54	104	111	68	117	75	260
製品売上高 研究開発比率	8.7%	9.1%	10.0%	14.2%	14.5%	12.9%	14.5%

研究開発型事業の多い当社では、守秘義務契約により進められているプロジェクトが多くそれら詳細情報の開示には制限が課せられております。

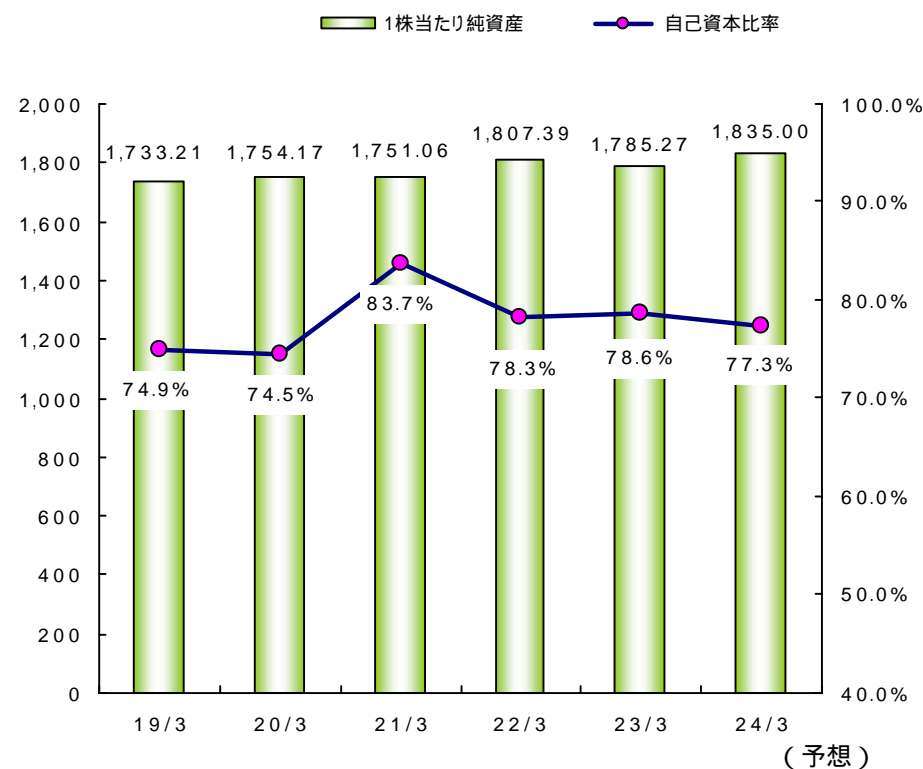
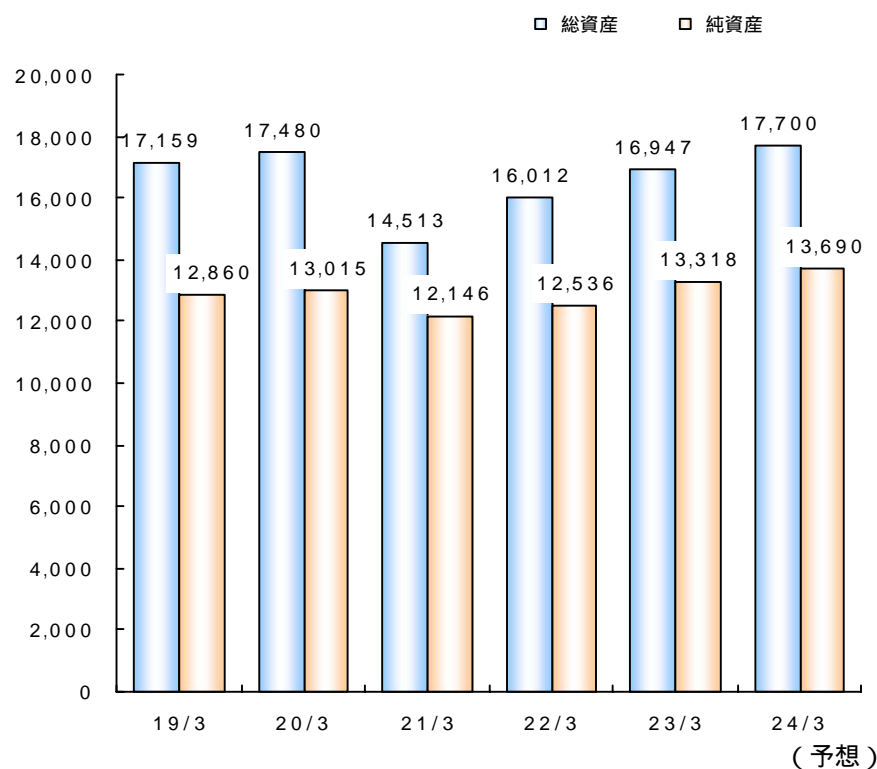
業績の推移と配当



	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3 (予想)
配当性向	60.35%	26.44%	25.35%	26.98%	24.81%	23.23%	29.73%		34.44%	53.30%	33.90%

総資産・純資産・1株当たり純資産・自己資本比率の推移

			19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3 (予想)
総資産	[Total Assets]	(百万円)	17,159	17,480	14,513	16,012	16,947	17,700
純資産	[Shareholders Equity]	(百万円)	12,860	13,015	12,146	12,536	13,318	13,690
1株当たり純資産	[BPS]	(円)	1,733.21	1,754.17	1,751.06	1,807.39	1,785.27	1,835.00
自己資本比率	[Equity Ratio]	(%)	74.9%	74.5%	83.7%	78.3%	78.6%	77.3%



展示会出展予定のご案内

表面技術総合展 最先端技術とその応用

SURTECH 2011

- ・ 日時 2011年7月13日(水)～15日(金)
- ・ 場所 東京ビッグサイト 東ホール



<http://www.surtech.or.jp/>

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。
- 当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみ全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願い致します。
- なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願い致します。

ありがとうございました

平成23年6月

石原薬品株式会社

(東証二部 4462)

URL: <http://www.unicon.co.jp>